

平家物語  
十九

1760  
19





Faint, illegible vertical text impressions on the left page, likely bleed-through from the reverse side.





平家物語第十九

如之江中將於南船之切事

大内殿父子頭之渡事

大地震事

源氏六人受領事

平大納言之流罪事

九郎判官与二内殿冲違事

云次房夜討事因之頭切事

菊地次郎隆直之切事

義仲隆於事

小条四郎因政上治事

六代御事

十郎花人行家之切事

志太三郎先生義憲自云事

西七兵衛隆人本

薩摩中務之切事

之役中將ハ石金丸といふ令人一人をわし  
ク一給ありけるがまゝくく入るる給あるが  
き八条後よりさいこれありの海みよとて  
伊豆國まをつち給れ入り守るま立馬並  
胡母中のいれ乃を大納言典侍なりて此  
給るハ之役中將ハ本津河う奈良坂とて  
まつこ給りんせもん首ハうこりて奈良坂  
衆うもりて奈良坂とていふすは合事



乃道理究成せりふれん主衛卿とけはた  
東大寺具後され大恒とこふひわくして  
後りのくひもやまへな鑑もくや路へさや  
中も道は老宿せんこうていらくお乃室  
漸つとふお宿来れ合戦乃中まは鑑此  
高名のまふようりふくも物とけりか  
一たれ一大将くんやうれとて院うら  
もふせ記のとも跋くわあたるんをれこ

こそもさうりほりくひあててあかりこふこ  
わ武士にわつあ道くろ一とあつり武士を  
こふり法敷てわりのくひにも一たこふまこ  
甲くながりのこふん本宿流乃物とてさふ  
あつとてつるをよとて武士のさうりさふ  
くひとんけそりてわらんれはて記なれハ  
奈に坂ようあへ一と金波志多進んをこて  
武士のこふ使者をほりつとて後ろ路より

入すくんに此をよそもまゝにすくなくか  
の法教よそへて首をさうけそのゆへと  
そやけりかくりの武士を人た文相道之位  
乃申おと本津河れりこりひさし急を海  
流のよそりそちんよ次之位申お家  
路のよ思給る進ん本立免よその急は佛所  
免ぢんやと乃給るん初母あうしよくわく  
好くさいもみえうりあれたそきしよんし

先うのそめ流ぬるよわのや家業にあらはれ  
ニんんとろのひしつこく海つのもぢらよ  
東向よす急まるせうの二位申お津流れ  
た右のそそのろりよと流る佛名流のよ  
ゆいつあそくちりく又急のいそを急ん  
つるうよそ達ぬみ道飛くく天皇の急  
乃記別よわの急そよかしら佛れ流らよ  
わつ流や重濁るうくられ道飛をひりか

あつて其甚い海へ引寄せ給へ流決り其よ  
軍八艘は先舟十八の船よ一念十念とえ  
らよとてこく強く海へ乃地へ切あ入りしは  
かりし中流を衝きこつていふれさいの十念と  
いふちからせこくらく海へ導給ふの船  
てしよよ念く念給たご忠よ中を流へあふ  
長由の忠のいよこ木らつるるよ流りいふれよ  
流よりりの中馬先首とらよ流あくよあふ

さうふ君の人いくあ方國人ならん  
いよとていふ事ありあ言先を流りつる  
之位中將乃むらうよ流りつるああといよ  
つとて目野へそく流りつるよとていふ事あり  
大船言典侍敵りし中出給てらひよあ流じ  
ら流よそりつとていふ事ありしよとてああ  
さげえらりそいよとていふ事ありしよとて  
わのみる事とあつていふ事ありしよとて



つるもの物乃こもなりとてあつて一のつゝあ  
て何れもとぬれ入りの髪は口はくちかへんあつて  
わりのあつて一に胡はくちかへんあつて一に  
て見るとゆつて一にゆつて一に常の風は  
るまじはこれといふくちかへんあつて一に  
て一にこれゆつて一にゆつて一にゆつて一に  
全に事ある縁はたつて一にゆつて一に焼上  
つてゆつて一にゆつて一にゆつて一にゆつて一に

をさつて背とて高野へあつてゆつて一に  
あり一にゆつて一にゆつて一にゆつて一に  
大流中へあつて一にゆつて一にゆつて一に  
大の奥後とて大垣をさつて一にゆつて一に  
とれをゆつて一にゆつて一にゆつて一に  
お立て南都とゆつて一にゆつて一にゆつて一に  
洋よつてゆつて一にゆつて一にゆつて一に  
般若野のそととて一にゆつて一にゆつて一に

後大佛をさし給ふと八今日おのりよ相給へ  
しやとてあみさしなうもる人もおのり  
りせり類とん七目りりく奈は故よもこ  
甲しりて春業坊上人よ大納言典由及之位  
中將れくひとこいけ給く言野へおつり  
こそまうのたのせのまこにれこ乃はのら  
おしんくれくおとれありの故去業坊上人  
と申八たる人又も重源衣着つた又も能り

子なり上醍醐法師少くおらくせの東大寺  
さうおいれせんらん上人あのおつら  
ゆれん之位中將の首ましくもつら  
へんたるまりの給もも無怒らつら  
まかりはらつ事れやをわんもるも重源卿  
槐門玉様のあよせしりも神明佛迄も  
か獲とめく真蹟よつめくハもくも仁義  
礼智信乃はよそむま給へるりそおの

忠告

因方二回大に及父子乃此類大款御門河原  
ふくむ世れふらうもそりて大款沙門乃  
大款をけへりて大獄門れまふあふ  
られまよめらりの法皇大款沙門東洞院  
一沙名まをさそはらんわりの二位いりや  
うれ人乃類と獄門のまにぐる事先例は  
悪右衛門督信賴卿さうりの罪を犯りて

首と刎死れらるる一長類と獄のれまよけ  
ら道と大に及父子あ因より入ていふなら  
七条を切んしへらさる東ありの人のれ  
何の類とハ死わく二条をけへらさる方い  
てふらり死ての恥いけさそらとせえん  
危うい

女院ハ名田あしりよ立入らせ給しあ  
そりそと又月と一ら六月とまらそと二回



ありありあれたる魚だたりのとあり  
あり

元暦二年七月平氏にありあくほろひて世の  
中よはまのあつた月よまていふに八瀬あのみ  
なり上下安堵して早しほよ七月九日乃  
いぬ乃ともよ大地あひてうまうこひ  
てあつてありありあつてありありあり  
なり各縣乃中白川れき六勝寺九重塔

よりりりりてあつてありありありありあり  
神社佛園皇辰人あ全八一守もあつてあり  
ありあつてありありありありありありあり  
れあつてありありありありありありありあり  
あつてありありありありありありありあり  
ありありありありありありありありありあり  
ありありありありありありありありありあり  
ありありありありありありありありありあり  
ありありありありありありありありありあり  
ありありありありありありありありありあり

近き遠國と又もこの世に山と川と  
河をうらと海をいふはくんとまはれり  
爰とれてまあこころの入法ありみかきり  
まてつれんをうよありてもなをうらとら  
さるるをい極大とえさつらん河を降て  
ふつとくわりのぬへて照しりせり  
大地震ありさるよわつれんそらと  
甲しつて龍は河うらとに雲あを入せり

心憂しとこののちなりともまよへ鳳華よ  
なると池のんといふとてせ給むの給と  
ふの新無野ははくま給むのりらわりの  
と沙花まといはれは給あるよんれ爰よ振  
削して人はなをうらとらとわく鶴楪と  
まそふま友へ還けありよりの天文博士  
海りりてうらとらに文石煙と和れ南庭  
よりの船とてうらとらとせ給ふ徳文徳院

も沙汰長例よまらう入よひまうく振られ  
ハハ車にやう一わらひハハ車よりまうくそ  
りてせ給るる公卿食後わりて沙汰いり  
りてむらし夜れみ給うそれ時中地う  
ち久うんまると沙汰わりのあんといて  
乃うらよぬる人お上下一人まうのせり  
そせうて障子をうそて天の地うくた  
ひよハハつていまよぬとひく高念仏と

あきん前々乃くあきかひうて七八  
十八九千乃このといまうある事おえと  
とそ中けれたせ乃あまらまといわまふ  
うそあわとせとあへうのつるものなと  
いあておとあれなきいせりいせれハハい  
さいものたもこれを及てりりもにわあ  
さげふ事といてうそあまらまら  
むく文徳天皇の法字齊漸二年朱崔

院乃沙母天慶元年四月より大地志  
じわりらりと託せり天慶少は沙殿と云  
て常寧殿の主人よ丑丈れ地をいそ  
ま上りてせ給り四月より八月  
かいてるまじくうらつてきて振る上り家  
中よわんとせよとうも給るをれは友  
事なれといくわりのらんのかひれ地をいそ  
まらりのちとあるへいせもいそらら

平家の怨霊とて世のうそいそらら  
甲十善帝王とてせよとてれは沙  
しそは才を海中よまはれ公卿大  
とらつて顔を別甚るいと御門より  
異ふよれ其例わりのよまもん  
いまいそららる事ありこれほとあり  
いそららる事ありこれほとあり  
いそららる事ありこれほとあり  
いそららる事ありこれほとあり



いける達礼門院を田中次去九日の地震よ  
所栖も何れもさうしてはいらも全うさわぬる  
念もさうさうかしてすませ給へまはわりの海よ  
もんえうせ給ひもたのりもさう人一人とらせ  
地うらうと念もさうさうさうせ給へぬ  
まは余もさうかたもさうさうさうさうさう  
今やとさうさうさうさうさうさうさう  
を海りのとれぬらん乃さうさうさうさう

まうさうさうさうさうさうさうさうさう  
ちりぬよりのさうさうさうさうさうさう  
まうの八月十四日除目かこさうさうさう  
人一人さうさうさうさうさうさうさう  
なり志をさうさう先生義惠伊豆守大田冠志  
維新中守上総を師義惠上総を加美  
次郎を光陰藩守長清尉義貞部後守伊  
豫守总九郎大支列夜義貞とさうさう

園田政元あり文治元年とそ中しりりりり  
ら源二位乃、すうひりる八九郎大文列夜  
よは伊豫國とすそまりの表なり院元  
危乃別當ありて京師乃守護よゆり  
とそ侍十人ほあられりり判友ありり  
りるハちれてきをうらつせはこれよす  
うららららららららららららららら  
かせんよいのらをめてこそよ大地を  
て世のみこまをちりつこれよこのえ

あうよあつあつとや園より初ん一ハあり  
たよんそ京よりありとんあつあつんせ  
じとおもふにらふ侍ととと後夜願た  
あはりのあつあつあつあつあつあつあ  
もよれやととととととととととととと  
あもあつあつあつあつあつあつあつあ  
てせうとととととととととととととと

る物とあらむとわらせくもれとくく  
て東國へあゆみつりよりの判友はあま  
恩をせんく道とそひあかしくあひ  
そわき海に位りの判友と討せんらう  
きこえりの故乃きせん上下又いりあ事  
れわらんもかんところあこまふやこわ  
りあれハ建礼門院にうめとてうそ  
高鎮うならまきこせこせうめか

きこえりの故乃きせん上下又いりあ事  
れわらんもかんところあこまふやこわ  
りあれハ建礼門院にうめとてうそ  
高鎮うならまきこせこせうめか  
へぶたうりとなしてわいしあまのあは  
ませぬはものありふいこまのひこを  
くぬのゆうやくあくあるぬは  
あくらあくわくわくあはせぬあはわられ  
ならぬ

九月廿二日平家乃秋さうの後さくいあ  
そのうああつらと平大船の時忠卿



うめはくくゆつ建しそと貴室くしてすふ  
あてよらやこを出ぬいふあはわりのふぬ  
あくしつせましくゆらんはらんあひい  
をたましせしよゆくさうとあひくまう  
あれとふまやふ中ふれつりのふさえん世流  
まこしつてさそへをわへあひじは流屋ん  
しそあしあまころ人あひもひくあふり  
あくわりのつるよとあひしあせはいあひく

産もはつりしてそあひしりし守りふ  
大納言ハも羽衣自知流るまこ無教権大丈  
母儀う子なり建春門院の流あひいふを  
つせしとん言念れ上白皇乃沙を威なり揚  
貴妃幸し母揚固志あひいものそとさう  
しりふしハ系二位あまい月とそとあひせ  
しか大政入つう乃小留あまく世のあひえ  
母乃さうあてしうりさうれん顯官顯職

あふれし〜あふれし〜はくなく経緯  
て正二位大納言より子息母實時家  
も中少将となりて大政入道と親しく  
万事よりあはせ難れあはれんあはれ  
よりまゝいりあはれあはれあはれ平  
開白とそとそこの人の中あはれ檢校造使別  
あはれとそとそこの人の中あはれ檢校造使別  
とそとそこの人の中あはれ檢校造使別

木乃母〜はくなく経緯  
勢乃母もさあ〜はくなく経緯  
十八人〜はくなく経緯  
悪別高経成と〜はくなく経緯  
か〜はくなく経緯  
人〜はくなく経緯  
帝王教へ入ま〜はくなく経緯  
よ〜はくなく経緯



か下を此條二條乃由一となつりあは  
るせんのこといさしき給ふ一なること  
帳帳乃仲よあうもそ華おの大物さの  
とさなりそ一もよひいさめだて書  
子あとりれみあくる人となくさるよこ  
う并へあもつしあなるからあうい  
給うんとすし一れういしとすし一あ  
海乃なまれうはうひて又あま乃由あ

あよさららるんしとさういあし  
この師典侍後ハなふ事とあくあひ  
ある人をけいよすあしとれうあ  
あひ給あくあつとくめさなう給あ  
それしあま乃事よなれをああ一みの  
なうさういあもそ世のうよ給とて  
と二条十條よあひあまあつよあ  
いああああああああああああ



收をあるまじく事々しく申すは  
後不待後とも申し候へども  
しと強しと云ふはふらふら  
わのせは

十月之日九節大足判  
反とをいふてまうし  
しとあてさるるにわたり  
子れらさりとせなりて  
去年正月は源二位

乃伐友よりして本為義仲を  
よりへいへく平氏を討て  
くをほりありしに梅と澄  
とらわ軍功ひるひあは  
さいわりのこいつらあ  
とくわうみはなりこら  
そそ比あふかまら  
ていしは目あぬと頼朝

ふれりあるとあはせし事ここは梶原トカ  
るハいしね九節判官後れりともあはれ  
長政ハ括津園一云の名んれ母ハ丹波路  
よりあつりてよめりりて鴨越とて龍山  
と云え城乃らりよめ入く平家あひた  
りし給ひハ部人ト判友後ハ沙討也  
海ハ海うしりハ山東海うりたあて  
ことあえ乃とけ討あし一也まゝのそハ

石らとららくうらうら一城乃らりあ  
あああくしてあああをうりなり  
しをくこもれうらあし給あなま  
そりんふのああしああえとそは給のあ  
まひなりああしあああをくもなるり  
大風大浪あまらうま五艘乃松よみ十路  
へりありの小珠とて四圍乃地より記し  
甲州まは城をせあかし一とて設計也

いすは同本書乃中よ何人の別友なり  
あふふ屋ふささりて君れ所敵さあひ  
結ふへ平人なりと申されは海二後友とれ  
とさおもふとと乃結者りそおさうふ  
これへ去去りてさ人へ官職乃許ささあ  
為よ提尔船よさうりてさるを記し  
きりしと彼用はて御とさ思さく念願  
さくありひあさんわさそ港しとさ別友

及より屋うの事なとされまへと増終よ  
るましとあひ結られん御へ思さりて  
頼朝を遣討せらるへささく大龜の恭経  
朝長とて院へ申されあさん十月六日  
藏人平右大弁光雅朝長院宣とて結て  
後二后深朝長遣討し人ささく院宣とて  
これとりの上卿平右大長経宣とてあひ  
さし京始れさあさくをてゆささり

いづついづつと憂鬱あるは海なるはわ  
人乃くあ世のいあといんころよりあれ  
は上一人より下可民よりなるは改伏  
張もといふ事ありは事いんあ事といふ  
風合れ詠をさうれころをれんあれ  
となりてあらうあうくくあうのあわ  
甲又やまのりて判官よくあうのあわの  
去わぬの京中なうとなくきうといふは

事ハああまといきせん上下といふは  
二位殿権原とありくはういんあ九郎り  
くよりたりしと全洗澤よころをれん  
るあうへも入もして京故乃守護ふん中  
ておい乃あせしとん遺恨とあ思ん大  
をともほせとん人とい付よをものあせ  
んようとんをともあらうくあうの  
ぬとあがゆはよは依席とあう乃あせ







午にてもういふうにわけて思ひつらんかきよ  
うもく海前これ金津乃大のどぬいふ  
けくそそわくきんこれいふゆらゆら  
こころよ弁慶と昌後とうしてまゐり  
よらんまういふとほくまゐりわのめは  
昌後ゆいといふいふいふ  
別友乃ゆいゆい昌後ハ義経とらよ  
乃ゆいゆい大君をもきんかきよ

い乃ゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
あらうゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
よせよゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
のゆいゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
ゆいゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
ゆいゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
ゆいゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
ゆいゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
ゆいゆいゆい昌後とらよゆいゆい  
ゆいゆいゆい昌後とらよゆいゆい



りのうそをいふて宿をへる品後起法ハ  
かこ入れとて一夜討殺せしむるは  
取討乃てこをそしむる

別宿ハ長丁の磯乃禪師の娘とつよふ白  
柏子をおとしれあり別友とつよは  
かゆし御んあふこのあつとよは  
席ちり取討よしむるゆかゆかとの  
了以大強ハ塵灰よあふそなふとあく東中

初そやくなり一乞形ハ起法法師ち志  
とよそそそそめぬらんと三流もあの大政  
入道殿乃十四又十六七なりちりちり  
とあみ肩のまもりよそそそ二三百人  
つらひ強り力を別友これ二人をとりてつよ  
給むるかれら二人土佐席の宿あきつて  
まじとそしつていしやくとそそそ  
くみえうのくれん半物をしてちり



むさびくいてられうりいほめりこちまう  
あつりかんきつりかこ馬にうととえん  
きんのまきよむきこそいり別宿お乃馬  
よむことおりて門むらあやといひく  
うらいてく日本あよし二回あいら義経を  
叔討あむむらうらあむきこものハおね  
えぬりのとせといひてく一跡うらおね  
へん款のうをわけて逃も判友そのあ

へーんそとまよいこ海えんくよけいり  
あり木葉乃風よあつりあむこあこか  
えんあちうえれぬる海よ判友のせい  
とみ百餘話よだりよらりあむくれハあむ  
いれうまのあくわりハ貴布祿乃あむ  
うとよあんとくそああこりり隊井をハ  
うらこをを村をく長秋死よりり原  
八兵衛底燈も味を村をく死生あむ







その人系は入道は二位友和後も九郎守  
は二拜し給くと乃給へんころそくねさお記  
ていりくは長次ゆへに起落つるまづる所は  
為給く一日は一まいつの百回あつて百まは  
起落つるく二位友はうそゆつのは給はれ  
た用もしてついに河守まづれ給はる大  
將軍あくろりの給へん河守まづれ給は  
り給はるんと人これとて大名小名

性子あも世乃らり小東四郎河政と大將  
軍して二百余騎給へ上る

元暦二年十一月一日肥後守人菊池元郎  
隆直この二々存れる平家よ付く夜々  
乃台戦に軍功ありしを平家職はれ  
後ハ安堵さくしてもやい乃らりい  
として二位友は隣人よまらりうりあれ  
平家の人として台戦といふその長持

此れも又あつていつ片も高直切らぬよ  
かり  
岡二目別友大藤の春経船長とて後白  
河は白とよとれん多神無流流代友と  
して君は涉敵平家を追討はまうり  
何らりり又美船の金龍目とて三つは四海を  
澄して頼朝日本とては奉てし八景の  
軍功よゆとや知と多神の長長とて子

大頼朝とてあよ村せらるるして小糸四良母  
改うも経て三百金流やとくわりのゆあり東  
あよまうりじひん目来れ軍功又あゆま  
甲子子細とも頼朝よ中倉くはたいまハ  
るあひやる人敵對も人こくもとてハ  
東園へとまうりくとも又東部を海段  
とらつては河中也女へつた君の流あ  
人のあ甚うといわつてハ西園へつり





と改称して中流うきく居りて沙下又と  
なぐれよりの列宿うきく居りて因上月  
二日本の一として京都よきとくし  
ついでなぐす卯辰うり故をいそゆ  
へ下向も海前守因わひもあう野道いれ  
れよせいりりよ五百余騎よ八も居りあり  
岡東よあらううわる在京乃武士迫ふ乃  
源氏こもあいにいりて村あれたるのよせせ

うんくよなちうあして河鹿すて八事ゆ  
あくつよよりの大物候して松ようらんと  
しあふよありのあう恵風やうてえのよ  
まよあよりして松津よ源氏多田就人を  
冠六人田を命給うけりて村あれたる  
てみかうんくよありのよせり取地とゆ  
せくわいようきよそりるうりりり  
はあきあきあうりあははさいあう松のな

よそておぢいさうをふみしき  
あまやうのあはれはききし  
うそみんごのあつらひ柏子うらり  
そ別友は流れて見えたり

六目義徳は女玉の源氏義徳の家を  
追討のためはおまへつる山陽道南海道  
を海道よりそとらば女玉をやりてそく  
海つるをより院宮よりいふは又頼朝

中より義徳は追討せらるるに  
下がるせあんのあつらひの精養  
なまじり船よりのあつらひは  
本をやりあや

同日朝東より源二位の代友も  
政上法も九部別友を  
さし名義もあつらひて天下  
へ八法も守護人をあつらひて

て國郡名録をいふと後別をわけて上河は  
一河は孫田と孫の帝王乃慈敵と云ふは  
と若ハ半由と孫のとりふは無帝をれ義  
神よんえふりともせとここの中状ハ色  
ふれ事なりやはは聖ありとつりせ孫  
へとも孫二位乃中より音りつりつり  
ふく白河開とてよ東ハ河也ははは  
わつらあきん経文よ中をせしてじかんのも

わつらあきん経文よ中をせしてじかんのも  
をよ道あり  
小乗四部は改教落しりハ半表の子孫  
をうろひいりつらんもの小術法と云ふ  
と功よふりつりつりつりつりつりつり  
わんまいはちつりつりつりつりつり  
こよりつりつりつりつりつりつりつり

平家れ子忠よわつふるも物のほりさ  
平家乃子忠よのひくりにせむかえうし  
うきおしなれんあは入ふようの敵  
もこうおとあしきをえんとくさうりはのお  
しひち乃中乃あめい流しあつたあ  
もくうの後小条よおのせやくわられらるハ  
権亮之位中乃非威子を仲沙門の新大納言  
乃娘のもよよ六代よふたふたせむあ

らとわんあし平家れ嫡とえとあしあひら  
まくつらひいさうあふ屋いあひ  
くおのせはうとれなれい小条いよと  
わあししたるひいあしあつたあ  
あふいさうとあつたあは六段屋  
あしるげと女一人いあてやあつた  
これらりりよ大あふいあふい  
あ入くあくあはははうりあつたあ



そのついでにゆりしを教してゆめをか  
ふらぬのしにゆりしをこの世にたぢ  
まつておめださぶよこのみとせう  
とていふたがていふたをいふた  
小どろおける人みかねるあつと  
もあつとせうなむゆりしは  
このゆりしにゆりしは

そ乃ゆめいふたをいふた  
まゝそのゆりしをゆりしは  
あつとせうなむゆりしは  
ゆりしにゆりしは  
ゆりしにゆりしは  
ゆりしにゆりしは  
ゆりしにゆりしは  
ゆりしにゆりしは  
ゆりしにゆりしは  
ゆりしにゆりしは

くそやーまをゆへにぬかふこころありー  
やー海うあつるふあありーとせれば糖を  
せふこころもあつたといふまふく見まはせ  
よまよりのうんうがきくせをぬぐかれらあ  
入てうろくはみろくーまわりのあふえうせぬ  
リン事ららなをーあふー糖をせよぬぬハ  
みのことよよりのてまこをんとあのこと  
あふこころーそまつる乳母はあふれはうー

あひうろくあつる今とてぬのー田あふふ  
うらのあふーいたとあふこころあふりあ  
らこをんハうろくいぬ珠のあふあふりう  
てとれとえたはいあうろくあもあふくえ  
あふてあれわりのせんあへをたんとあふ  
あへのあふーうの君念珠そのいあふんあ  
あふこわろそあふー又あふのまうあふんあ  
たをこころあふまふーいあふんあふんあ













とわぬちうとくまへははる乳のかり  
ふりそりあひまひせて所母ととれま  
いらせうりはるのなまのふりそれく  
さうぬあのみこくもあふを治へん法  
をわくいうそくこれよすふんとそすから  
聖のまよたささうて回絶一はあめり  
ふゆとくまへははるのなまのふりそれく  
ふりそりあひまひせて所母ととれま  
いらせうりはるのなまのふりそれく

席とくまへははるのなまのふりそれく  
たせけいそまうのうはこれよあめり  
てふりそるなまのふりそれく  
あふりそるのちまひもあふを治へん法  
上人の法心あふくまへははるのなまの  
ふりそるのちまひもあふを治へん法  
あふりそるのちまひもあふを治へん法  
あふりそるのちまひもあふを治へん法  
あふりそるのちまひもあふを治へん法







みかたをいそがれてもさそりてい乃らん  
らりいそがりし事あり又根柢れ其後  
あとおよびきて飢よるをみく死あんと  
せし事と御あり其とたりくしんい乃  
らりあうくし千星れらさそりしそ  
其とも又六日よ六日こくらの院道と河と大  
てまかりしなるといなる事なれ  
やもあういしん事をぬく後我一期乃

間ハ一事もたぐしとそり乃らしんし  
ウ愛領神惣結りしとそりし結りしと  
乃をた回うい乃らとそりし結りしと  
去あうの天徳念へるる其後六大学の寺  
へりりてこ乃らしとあれも母沙をて  
をとりてしんし結りし結りし結りし  
結りし結りし結りし結りし結りし  
結りし結りし結りし結りし結りし



ていつせ強人た人若んまひらせぬ海に  
あうことぬんあうと海まうゆらゆら  
中ぐれえわかじうんやいあうん聖人  
さねゆらんふかよぬはよそみえさうし先  
三つうもわうハいそまふくみよあや  
いひーうやと大目しあうぬたぬあひ  
たうそんねゆあなはたのじうーあや  
就事や今秋このよううらむーこれ

あそあわーあやあやあやあやあや  
ああまりの恋ーあはあはあはあは  
あよいあよいあよいあよいあよい  
あよあよあよあよあよあよあよあよ  
あくうらあくうらあくうらあくうら  
さうさうさうさうさうさうさうさう  
あしあしあしあしあしあしあしあし  
あをせくあつるよふえハあうさうあし

まらみこころうや今秋にりれ名目と  
てあふなりのをくあふんあされお葉  
とやうらり入らん人のいさう一巻うあ  
らんあうてうせよやいさう一巻うあ  
あそもゆりえれあふんよるやうのい  
あふんららなう一巻うせんあうあ  
そあふんあそもをのまう一巻うあ  
いつくまても沙汰はてそあ骨あはりて

高野松河よもたうあそまうのうんえれ  
とあふれそああふんあふんあふん  
まんこそ一巻うあふんあふんあふん  
をのまうあそあふんあふんあふん  
てあふんあふんあふんあふんあふん  
ふりらりせあそあふんあふんあふん  
あふんあふんあふんあふんあふん  
あふんあふんあふんあふんあふん

十二月十六日  
改六代沙羅をうへたてまつりて六波羅  
をうへら給ふ會坂山を居給てハニね我ら  
みへ志とあるなりと思給りりハニね  
まわら坂山を打もまいてまへにれちと  
とまへみれ給ふとハニねはよりり  
うらゆらよつとまへにれちと  
うらよらまへにれちとまへにれちと

まじりてをやろほりあまに二人  
とまへにれちとまへにれちと  
これ給とまへにれちとまへにれちと  
て魚乃あまにれちとまへにれちと  
興のたねよはにれちとまへにれちと  
とまへにれちとまへにれちと  
ものまへにれちとまへにれちと  
なくくわよらまへにれちとまへにれちと





唐くしとていふれんあるは其の法を事とて  
りくくしてみいうらうかつを結むる法  
の中何計かといはれんといとて其の  
ふゆく今いふりれ其法乃て思ふて  
てきこ人もある山果中りるハ平受の公達尋  
ねらんとていふるもあるへうもいふこなき  
後石の法といひくおのせとては結むる  
一は若くは其の法を事とていふる

されしといふてあいなむるも  
今れ回つても法を事とていふる  
ゆゑこれあまふこそ目まなりみり  
く何れを今といふおのせとて  
衆なることをいふれん法を事とて  
といふみのらひいふんといふの二人  
あちちとていふるもいふるある  
あかきとていふるもいふるある





東國歸たりてふくみ給ひて神女にこそれ  
給ひておの給ひて若君中り給ひてありあ  
まのくにいそぎし色思給ひておとよて武士  
たみかふらふらふあまのつゆあまのつゆあ  
心乃らららいつらりあひらんとあはれはら  
まこくしんあひららふらふらふらふらふら  
流つてうらり若君中りあひららふらふら  
夜とく徳倉及所文をばええとて奉はら

ためそみ給ひてんともてあまのつゆあ  
こりてふらふらふらふらふらふらふら  
たり文之後中將初及れ討よの大お筆お  
甲斐いふもゆららわらわらの給ひてんとも  
初給ひてゆららふらふらふらふらふら  
おらぬらふらふらふらふらふらふらふら  
給ひてんともゆららふらふらふらふら  
あつてゆららふらふらふらふらふら

乃路りの八廿日と書しは回数とせしうは  
此路りのまじりもなまぬとありひくこのと京  
都はあまのきこあつれんを平つるはあつて  
うあやまのりはらんよとそは路りの若君は  
あまのりをを具てとやこくこののりは  
いま一海とありせはここのそはつるは  
あまのり若君よよみんり路りのとあま  
ましと夢たれこちとてそは者一り

汝及又汝及六あまうつたあまえとて  
ちりり小糸結とて二ひいあまうて  
汝及又汝及六よりせこのやせいられな  
まげありのこくあまのりつるはあまのり  
あま二人あまのり又あま若君も物をた  
まひのた目こりたあまのりよたなま  
まうけらるるまのりつるはあまのり  
まうてはあまのりつるはあまのり

やうに二日後にいらぬしうし事ゆいふ  
糸くさりよりの管はる巻をさたてそよ  
初らいたるは乃りる日取に決られた文法元  
その年れをこそわのはまに居たおつこ  
れ何しらくく歳とる明る四月六日文字  
上人の里れ坊二系猪後へそよよりる着  
君は方なるへし海へあめくわのし  
とよむらうしひの飢さを包すつ終よ

へくそ大さあうしうまし海しきもの梅のし  
危とをんこはしそあうあ人あうしうた記  
のふよとりやいあうしとねああいよ  
危うり大の音とせしやいよ成よれん  
人乃あしとせとあもあひしとあれん  
しなのまうたれ記しうりしし物と屋  
をうりてせうしはしつをなれんしれ  
とみしうさうらる物ハをのまはらりこ

それよりいふる色し母沙前乳母の世居妹の  
御女沙前ハいつも少くよれくさうし其里  
よへ人始つてもて身をぢけ始よりわさじ  
又卒家此方よりとて或土乃そのりりやん  
いあへよ思ひつころよ念うて重ぬつるを  
念くところなよとほほしき事とて沙前  
事とていかなう様とあへひながるわさう  
らせしといつていふもいふくいふ事とて今

秋ハあよよいせりてあへいさゆくとされ  
事とてはくくともあへひはくあはて命れ  
あへりりくもあはくらのあつたりの事とてこの  
んくさへいふいとみえまうりの人いふよら  
らんといふ世はるよいハりりりやあわりし  
松よりあへく何れとあらせとせりその事よ  
ハあへいりりりあへりりあへいりり漸々  
あへよりりりあへ又あへ六其意とていりり

甲子く今よ同れれし若君はる母く今こ  
所を給ぬや母沙氣は乳母れちるすそ給  
て其は歎あこめしそそそあらせせも  
あゆんとの給ひしそそそやあの上給ふと  
てふをいふちをわしそそあせよあ人  
そとあなすは山さる殿行しそ後母を  
あゆいしそゆらんそそ大佛系給し  
給てゆあかり殿はなすあそそ給くあ母

長女よそそ給らせ給るあゆ給しそ  
はそとあるらんそそあ後あそそへそまゆりよ  
あ母上乳母あゆはそそ乃親者あゆは  
し給給て別る若君とそそ一度今そそあを  
給へそれふふそそそいそ給いのらそそそ  
若君とそ連の上よゆ人給へ大慈大悲れは  
誓はれつるあそそそ記そ給実あそそそ  
あ給りれ給あそそそそあそそそあそ給

へとせりて流るる沙ありてよむせりて  
地の音よりりるよは夜六にれとてくよ  
種とせなるはりあて夜六にせ海り  
てあつてゆり色ん母上乳母なるあふ  
まきまつくよゆりれりて海にやいよ  
やくこる若君ハいよあ流るるくと同流ハ  
あゑハ別れ沙事らつて沙上ゆて大なる  
よつてせあしついでまじりてあふりて

中なるまじりてりてせんあかりあひ  
れ事やよ米親音よあゆをせんよあ  
ろきよをりて海にりて事よ米親  
せりてあひりてりてあひる事よい  
ろりて今をうかんとハ米世のこあは  
ひく百の集あひりてはるよこのあひ  
ゆりて又よてまじりて親音よい  
て京へ出流ぬるても夜六ありて徳倉へ

此下の道もこうなれ事どうかつりよせぬ大  
慈天慈乃沙撈八はみあるとついなさ  
と川守一様も事なるといひつゝいづるに  
おつり入と道く大なることあるを  
見様よなうつゝことおほく治つて  
地と一様りるしうきと起り世はる事又  
なとらうみいのおしれをいひつゝ  
中流へし母上乳母もなる事とつゝ  
はるみいのことと甘ねる人さく入致せ

なつてとらうみいのおしれをいひつゝ  
効とおほえて回らるることとつゝ  
てんえ様もそれよつめこといひつゝ  
ふさぬ物の沙撈はりのあり若くして  
りつゝとつゝ海へ入れた母の心とつゝ  
一又聖のおとらんもいひつゝ  
つゝ言解へ入らせ様ぬ聖のありつゝ



こひつづまうそまづの安後又安後とて  
とんくも母とれ大孝とれ沙とす并れ  
患ちるまといまやまも病りの

ふる程よ小糸強念へるる野まう友より  
沙波りし重く向く中若り比十郎若人の  
家志を二高師先生義憲河内忠よくれ  
るるうし其さし人ありあつあつてま  
らせらるへしとすりれん小糸これま

て下の方をわづの上へいよあつとて糸は  
代友よとつる小糸甥平六時定よまの  
乃しと人十郎若人の家志を二高師先生と義  
憲等河内忠よあつれこりるるうしとま  
わの女人とあつあねく可とて中強念友  
よりあるせられつるこれまてるるあつこ  
ろりのあるよあよひ若か乃人ことあつあ  
くつとあつと母定りしとすりはせらる母定

り師をよ大源次宗をくしよりのあり母を  
中より八は事いふわたりこもさくわら  
先よよ人又わのんことみちのたうん  
こそわら母にれよいまゆり乃法師  
乃あり一はいまこれよあかりわらそ  
わらううらり八山門を信法師い  
らるる品明とよあものなり母を中を  
ハナ師を人友をたう先生友を人を

わらわをくはりせよわらう友よりか  
はせわらわのうらりか乃人もく八天王寺よ  
これわらうらりこもさくわらわら  
いらせよとくしよ明十師を人友とこそ  
見たりまらせわらりこもさくは母を  
り師を大源次宗をさくわらうく信徳を  
は人益原十師を久田國は人業原の信は  
上原の九師いよのまは人羽鳥初年六常隆

武臣人若下を御同治御あをりて  
て御食之平金路少て天王もへつて天  
王もよ秦六秦七といふ御人先才りとも  
かたれかたりのあつたほりれきかといふ  
の娘二人ありてと十郎御人思ひて  
御くましくくり先品明秦六秦七とい  
とをみるよんといふを御のちかき御も  
とをみるよんといふを御のちかき御も  
とをみるよんといふを御のちかき御も

そこあつた御もつて御明ちつた御も  
とて天を御く京へつたの御もつた  
御人御野へたつてつた御もつた  
八本御司といふ御の御人乃ほりて  
平六御定といふ御の御人八本御司  
との御もつた御の御もつた御もつた  
つた御もつた御の御もつた御もつた  
御人御もつた御の御もつた御もつた

字は毎さしりてみ十跡よりれ  
勝ありける東河乃橋岸の色とて品  
明よゆさあひつり十跡花のみの八和泉  
國八本郷といふ所はまゝ一海とかなをいそ  
き池下てあつちよとしひくえよつらと島  
明ふあんと揚鞭とて池下て八本郷を  
ふらぬるよこの跡よこせまゝしりて一  
ま八昌明はと入くみるよこせと共しとん

くわりのとらんへつりるは跡をせと昌明は  
よの家の及はよたらつらあはあつとせ  
とるをそくくころん八つらよまゝと  
きたしよとせとあはまうとせととれん  
いとぬ物あつらひをきつらんとてたか  
ぬんととあれん廿あそらうしよとあは  
家よとていふある人御らん昌常なる様  
のせまゝしりて中なれは昌明とて

ておの家とみまは禰衣よ菊さうらうなるまら  
心ひこれきさるおやめのおうほいしそ有  
ちつみくたゆしる長しこれこあらんや  
て早りちりしるまきよは昌明りよするを  
んこおのおこはとあてこさうそ  
にうるを昌明これをしる人ともひく  
進るる十郎おん人金作れおれたより  
りり給へりはんは後世美控のふあそは然お

山急浦後によまのせ給へりをよめは三人又  
寸の久をかねてしるておりのあれぬよた  
ちしるひる昌明しんせや切んは家ら  
知うとわとせし家らあうやさうりてた  
れよよりらるる金作のちかきはかきう  
はんとおりの乃あしよる昌明とさせうた  
カよこへんせあわうくあわりのされたあも  
おりりこやあく切よさうりあれはすうおん

あゝ人よしてぬのこあれゆははと入高明や  
くるハこいさうと後をみせう後法との  
ふやこいさうは和僧とこれあせと宣  
へは高明はとせうの乃とたかど類よあそ  
あ人つとせうの高明ちやうと切らぬう  
とあせとせうとせうの乃とたかど類よあそ  
とて高明ちやうをなせよとせうの乃とたか  
いとあせとせうの乃とたかど類よあそ

海を次家安大石とせうの十郎あ人のせいに  
とせうとせうの乃とたかど類よあそ  
おのこハ下藤なりせうとせうの乃とたか  
とせうとせうの乃とたかど類よあそ  
事危わのせの海へんはえんは外わとせう  
とせうの乃とたかど類よあそ  
法たりのせとせうの乃とたかど類よあそ  
人をとせうの乃とたかど類よあそ

探乃多をこぼせりわく一人高明とん  
流て和増ハ約夢は江りれむといひふあふ  
いよあふつると此強へん山上とあをれ  
わく増もよおらじ事ハゆつとと思乃  
ち力はその事ハいよこあとも物伴た  
乃流もあくうせ流つるを力よ何よこ入  
うつくとせゆつと事ハ又高明とんあ  
あつりゆつる何やう思へん和増は志り

まぬるうハとせ道りる志者言即先生  
兼河内國をあらて醍醐山ハいりつと  
きこええ山とさうとよは流美とさうとを  
ちゆつるを和増年六とえとて山流を  
みゆるよあよち力股巻接流てあふ流  
山よあられゆつりる流よ自若くてむり  
あ人り首と剣と損せぬ流よとて腦を  
うつとてとけあみとさうとてあつり

まろく入りのりくつりよりの何ある勸賞より  
わろくんもんといへりくるよ勸賞よわろく  
もして常陸曲へなるされよりの流人とい  
ふある事とやいふもいふもせれた長知を  
ろくたあつされく二の事一に柳行受録  
一たり一常陸曲へなる一つるとい  
まこわろんりせとせりいといとい  
僧といふも思はらん下藩の大おらん文

歌よのと録一は道は真加れあひを母よ  
和僧とわろくめたあよあつ一はろくつるよ  
甲とて勸賞よハ振津曲土室庄從るよ大  
田庄二ヶ所とてはろくありある年六つ勸賞よ  
ハ本願とわろくはろくは振亮之後中將永威の  
子は六代沙流ハ一つりはろくつるよ  
はははあつらりはろくはろくはろくはろく  
いそくもあつらりはろくはろくはろくはろく



そらあそらうーくそ世にれらる隠念後と  
はのうたおほつうあもよははく之威の子  
皇六代ハ桓朝くうよ初敵とど打た念  
け親のそら成とさうよりへありのう又桓朝  
とけく愛くはくくくくめ何故はははへ  
と中うれくはくはくはくあはるはえに  
あのおとあがつうちくおほくうーや  
中あそし世おねせそ音人志らん中思

法へんくそ法法くあ但頼朝朝ハ海なる  
乃なりともいそり可憫子孫のと念う知ぬ  
と宣つるそあそらうーくこれよつあく念  
世をつくそ法ありそいとそく九条右大臣  
は捕録せよ法法へんくは念及り院へ  
中り中う方と記こえくはとた十二月  
八日よ内覧宣旨をうくこれくそ昌泰の  
しり少井天神中院た大に相並く内覧

此事ありしはつ初主乃沙母をたよとて  
内膳の例ありと衣大臣おのせらとせされ  
八次より二月十三日備改乃領書を令  
たされ又その日院より衣少弁定長と  
役めて衣大臣備録乃事頼朝に当執中  
之中近衛友へ申す也給ひしより今も  
忽よ門さうとよりの沙分丹波國許中を  
たすひは御籠衣わりの衣大臣撰られし

ゆゑとてさる沙事ありとてしりし  
平家よむとほとてしりしとてしりし  
つりたりとて中なるはほとてしりし  
おのりしとてしりしとてしりし  
中なるし事ありとてしりしとてしりし  
はつとてしりしとてしりしとてしりし  
平家よりの後世のみとてしりしとてしりし  
人乃ちんも事なりとてしりしとてしりし

かしくりたる陰徳もあしむと陽報  
忽よあつたまよはるるやらんかゝるあひ  
ありまゝいしくいみふれたる世とあ  
はれたる事とおうし給ふ

六代清和天皇女也如給ふれば世にお  
そりしむしむしは後と申しおし給  
ふしと母人もれ給ふもんそりつり  
てはこれややうつらゝんを感つしそ

まつんよそのあしむは母のよめしわのせは  
今八道清和女也くしあしむしむのあが  
しそあしりれ事ありたる十六と申し  
乃文治四年れ去のしつそしとあつた  
と申し給ふとて栉衣袴負みとさつあ  
てうつらけあつ髪を肩のまりのりそ  
しつりつて文覚上人よいしあしむ  
新よいて給ふありあは又あはつたあ

何うよかへり所さしよまほる先高野は海  
りりく時頼入道うあんさつよふろひひ今我  
れ忘りくのものなり父のぬりて給らんす  
乃さつまかりしなるといふつりつりと道へん  
母頼入道く道へんてよりの権亮と後中  
乃乃身なげ給しとさといふの事れやうよ  
おもひせくわつれつりこ乃山やうせいとも  
三位中ぬよたくとあは給へりあり一は

先よりをりのまてれ奉に海よかへり  
中それハこの山やうせい海とくみあは  
御そと巡野へまひり給く新宮那智へ  
つるひ給強文れ王子の仇敵とて父三位  
中お身あげ給る備へたる奥のこことハ  
むじらと弁なまわ給くそらよあまそそ  
たうしむら父ハこの所前乃具と身とな  
あ給たりたりものないつくのせと海ある家



十一日は大佛供養あり平家乃侍上  
総勢七千余景清の母と友へ降人より  
甲入りのせれし和田左衛門尉威ありつ  
らひし一平家より一やうよとよしと  
に居しと和田左衛門尉と一平家を  
せりてさうりしとよしよりありし一平家  
ふりしとせりておのゝ方なりてわりし  
わりのて他人よありしとせりしと  
常陸水戸人八田重村知事ありしと

常陸水戸人八田重村知事ありしと  
徳念及大佛供養に随兵乃守護あり  
よ建久六月二月は河上流同三月十二日南  
都へ入らせしと大流烈て<sup>列</sup>たつと  
中よありしとありしとありしと  
原をりしと入らせしと大流のひん  
しとありしとありしとありしと  
ありしとありしとありしと

まゝくんハ初巻をばそのてあしらすはと  
らさるりり河もそのと同一年爰れは薩  
摩中勢巫宗助と申すの由てゆありそ  
まハいふと多しはりや思を神といひて  
ゆ少くありいとせんと白くはあすか  
はくせ給く母りやううらんぬやとせり  
くねく大佛供養にそく於へは上わく宗  
助を以て糸河系とて示すに

糸河系





